

# なきごえ

《キーウィ特集号》



1977

7

大阪市  
天王寺動物園協会

## キーウィ入園7周年を記念して

駐日ニュージーランド大使からのメッセージ

### “キーウィに寄せて”

ニュージーランド政府が天王寺動物園へ一対のキーウィを寄贈してから7周年の記念すべき日に当り、この「なきごえ」誌にメッセージをお贈りすることは、特に私自身、数カ月前に大阪を訪問したこともあり、喜びもひとしお大きなものがあります。大阪へまいりました時は、時間の都合で残念ながら、動物園へ行くことはできませんでしたが、大島市長やその他お会いした方々から、動物園のことやキーウィのことについていろいろ伺いました。

当初、ニュージーランド首相から天王寺動物園に対しまして、2羽のキーウィが贈られたのですが、雌のキーウィが不幸にも間もなく死んだというのを聞いております。しかし、雄のキーウィが、聞くところによりますと、すでに高令であるにもかかわらず、7年後の現在もお元気であるということは、動物園の、またキーウィの世話をされている係の方々のご努力を高く評価すべきだと思います。

なくなった雌キーウィの代りに、もう1羽のキーウィを天王寺動物園に入手することができるかどうかについて、もう何年もの間、いろいろ話し合いがされてまいりました。もしこのことが実現すれば、私としても嬉しく思います。

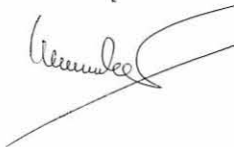
しかしながら最近も、大島市長にお手紙でご説明申し上げたのですが、ニュージーランドではキーウィは保護鳥になっており、野生のものを捕獲することは法律で禁止されており、また檻の中で

飼育することがむづかしいこともあって、海外の動物園と交換できるキーウィの数は極めて少なく交換のためには順番の来るのを長い間待たなければならぬような状態です。大島市長にも申しあげたのですが、天王寺動物園が、ニュージーランドで交換用のキーウィをもっている唯一の動物園であるオークランド動物園と直接交渉されることが、もっともよい方法であろうと思われ、このルートを通じて最終的に、天王寺動物園がもう1羽のキーウィを入手できることを希っております。

当大使館といたしましては、市民対市民の交流が、日本とニュージーランドとの間の友好関係を促進する上で、公式な政府間レベルでの交流以上に大切なものであると確信しております。ニュージーランドのほんの一部ではありますが、天王寺動物園におりますニュージーランドの珍鳥キーウィが、大阪市民の皆様へ接することによって、両国間の友好関係に何らかの形で役立つことを、また今後も寄与しつづけますことを心から希望致します。

昭和52年6月29日

駐日ニュージーランド大使  
アール・エム・ミラー  
(R. M. Miler)



### なきごえ7月号

“キーウィ”メッセージ	2
シュバシコウの赤ちゃん	3
動物園グラフ“キーウィ写真特集”	4・5
ワシントン国立動物園における キタキーウィの繁殖について	6・7・8
キーウィ雑感	9
オトロハンガにおけるキーウィの人工ふ化について	10
動物園ニュース	11

### 表紙の写真説明

#### “キーウィ”

日本で唯一羽、当園で飼われているキーウィのニュージー君も、ニュージーランドからやってきて、8回目の日本の夏を元気で過しています。

(撮影：樽本 勲)



### “シュバシコウの赤ちゃん”

毎年、春になるとコンスタントにヒナがかえる当園のシュバシコウですが、今年は4つの巣で6羽のヒナがかえり、すくすくと成長しています。

(撮影：宮下 実)

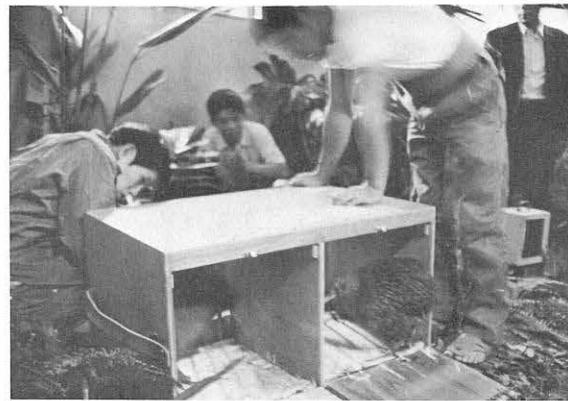


# 動物園グラフ

7月2日で満7年を迎えたキーウイの、入園時から最近までの様子をグラフで特集してみました。  
 (撮影：①-⑥ 樽本 勲  
 ⑦ 宮下 実)



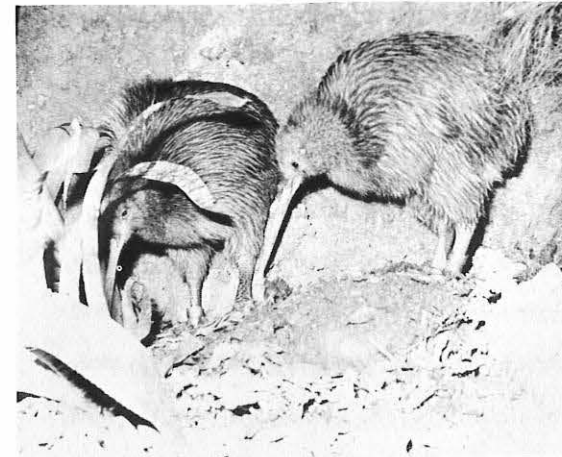
② どんな餌が好みか、いろいろな餌を並べてみました。



① 到着して箱から出されるどころ。



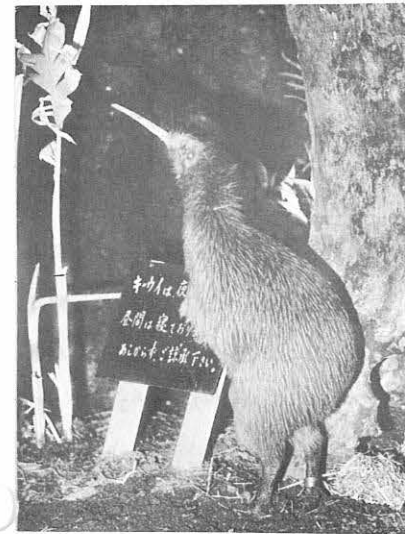
③ キーウィ舎内部全景。  
 (手前の器具は自記温度計)



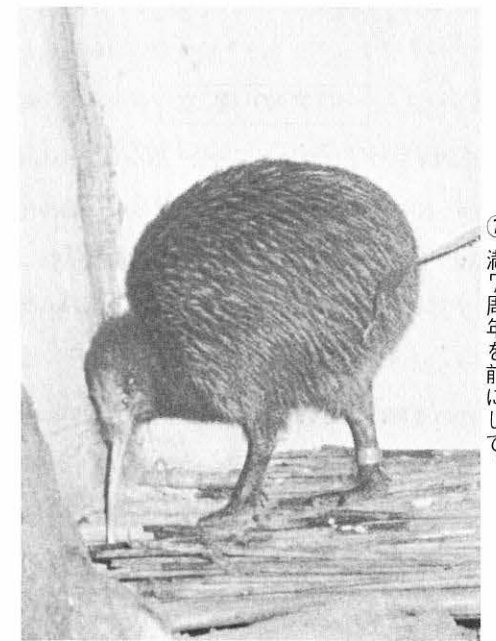
④ オス、メス2羽仲よく。



⑥ 土の中の好物のミミズを探す。



⑤ キーキーと特有の鳴声をはり上げる。



⑦ (一九七七年六月二十九日) 満7周年を前にして。撮影)

## 5・6月の動物園日記

5/8. 春の動物園まつりが終了しました。

10. “野鳥を守りましょう展”を開催しました。フタコブラクダの子、ミルが左後足に擦り傷をしていたので治療してやりました。
11. クロサイのメス、サッチャンが下痢をしているので薬を飲ませました。
12. フ化したシュバシコウのヒナが残念なことに巣から落ちて死亡しました。
14. クロサイのサッチャンの下痢が治りました。

オナガキジのメスが衰弱していましたので注射を打ってやりました。

夏にそなえ、冷房ペンギン舎の試運転を実施しました。

15. 骨折をしていたブラックバックのギブス固定の3回目の取り替えを行いました。経過は順調です。
20. 夏にそなえキングペンギン2羽、イワトビペンギン5羽を冷房ペンギン舎へ移動しました。
21. 治療中のオナガキジのメスが死亡しました。

死因は卵胞のう腫による腹水症でした。

台湾産のヘビ、スジオナメラが産卵しました。

24. アライグマのロージーが出産しました。
27. 待望のタンチョウが昨年に続き今年も産卵しました。ニホンシカが2頭、生まれました。
28. 24日出産のロージーの仔は1頭で元気に育っています。タンチョウに続き、オオヅルも産卵しました。

29. バンのヒナが3羽誕生しました。

30. タンチョウが2個目の産卵をしました。

31. オオヅルも2個目の産卵をしました。

1. カニタイザルの寄付がありました。恒例のメンヨウの毛刈りが行われました。刈った羊毛は全部で28kgありました。
5. シュバシコウのヒナが4巣で7羽フ化していました。
7. みさき公園からいただいたエミューの卵がかえりました。



## ワシントン国立動物園における キーウィの繁殖について

担当飼育係 パメラ・S・デイヴィス  
鳥類課長 ガイ・Aグリーンウェル

### はじめに

ワシントン国立動物園において、1975年1月20日キーウィのヒナが1羽、孵化した。オーストラリア地方以外ではこれが最初の繁殖例であると思われる。我々はニュージーランドとオーストラリアのシドニーにおける孵化記録とロンドン動物園における産卵孵化記録を見つけたが、それ以外には記録は見あたらなかった。

### ペアの確立

当園のキーウィはキタキーウィ *North Island Brown Kiwi Apteryx australis mantelli* である。当園での繁殖の試みは1968年10月10日、ニュージーランド政府より1ペアのキーウィが贈られた時から始められた。

最初の産卵は贈られてから約1年後の1969年8月14日にみられたが、一晚のうちに破卵してしまった。他の4卵は9月9日、10月14日、11月19日、12月23日にそれぞれ産卵された。これら総ての卵は人工孵化の為取り除かれたが後で総て無精卵と判った。この4個の無精卵を産んだということと体格の大きいキーウィが産卵するという事実から当園の2羽はいずれもメスである、と判断し、ニュージーランド政府にオスを2羽欲しいと申し込んだ。

ニュージーランドのキーウィの専門家は送ったものはペアであると確信していたが、オスをもう2羽送ってくれた。しかし、そのオスが届くまでに5個の無精卵がそれぞれ、1970年7月4日、9月22日、10月30日そして12月6日、1971年9月11日と産卵さ

れた。

1972年7月18日、オスのキーウィが2羽やって来た。そしてこれら4羽のキーウィの性別を調べたところ、前にもらった2羽のキーウィのうち1羽はやはりオスであったことが判明した。しかし、1972年、1973年共産卵は行なわれなかった。

現在、ワシントン国立動物園にいるペアのキーウィのうちメスは始め送られてきたものであり、オスはあとから送られてきたもので、この両者は1973年の4月2日に引き合せられた。

残りのオス1羽は1972年暮、シカゴのブルックフィールド動物園にもらわれ、もう1羽のオスは1973年4月、サンディエゴ動物園に送られ、メスとペアになった。

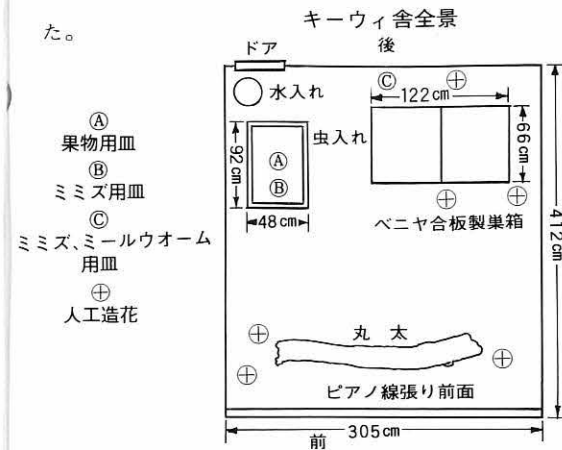
### 新キーウィ舎について

1974年の初め、鳥類舎の一画にあるキーウィ舎の内部を改修することになった。底のない箱の外壁はベニヤ合板で作られ、中は幅61cm、奥行66cm、高さ41cmの2つの部屋に別れており、入り口はアーチ型で幅15cm、高さは30cmである。箱は高さの $\frac{1}{2}$ まで埋められ、部屋には凹みが掘られてある。各部屋の屋根には13cm四方の観察窓を設けた。

1月21日、3.05m×3.96mのキーウィ舎の土を、深さ50cmにわたって取り去り、泥炭ゴケを十分に混ぜた新しい泥と交換した。同じ日、ベニヤ合板製の91.5cm×48.3cm、深さ30.5cm、底に金網を張った餌のミミズを入れる箱を入り口近くに設けた。このおかげで非常に多くのミミズを探せるようになり、また、汚れた土を簡単に取り除けるようになった。そしてニュージーランドの林床を模した木性シダやそ

他の植物のプラスチック製人工造花も備え付けられた。

オリは不透明な天井を使って暗くしてあるが、うす暗い観覧通路に向う前面はピアノ線を張ってある。夜間は前面内側の上部に一行に取り付けた蛍光灯で照明し、昼間は100Wの青い白熱電球、又は250Wの青い散光型電球で照明した。このような大雑把な照明でもキーウィの昼間の行動に影響は与えなかった。



### 飼育方法

野生のものと同様、当園のキーウィも、とても内気で慣れにくい生き物で、彼らはプライヴァシーを侵害されると激しく腹を立てた。そんな時、オスの場合、近視眼的に人を責めるので、一番近くにいる人の足やすねをけりつけた。しかし、これは実のところキーウィが人を怖れるためであると思う。だから、人の干渉を最小限に抑えることが繁殖の成功のための大きなポイントであると信ずる。ことにヒナが小さい間は特別の注意を要する。

一日の採餌量は巣箱から出て来たキーウィを観察することと、定期的に懐中電灯で巣箱の中のキーウィを観察することによって調べた。

毎日のキーウィの餌は果物皿にのせてやる果物(ブルーベリー、水にひたした乾ブドウ、細く切った馬肉、細く刻んだオレンジやリンゴなど)、それにミミズと水である。食物にはスクイブ社製の総合ビタミン剤“ヴァイオネイト”とカキ殻の粉末をかけておいた。

### 巣作りと産卵

定期的に懐中電灯で調べているうち、1974年9月4日、グリーンウェルはキーウィが舎内に植えてある人工造花の枝をひきちぎって、それを彼らの隠れ場である巣箱の穴の中に集めていることに気付いた。これは巣作りをしているのに違いないと思い、松葉を巣材として与えた。

1975年1月4日、巣箱の左側の部屋の中に1個の卵を発見した。それは松葉とキーウィ独特の毛のような羽毛で作られた巣の中でオス(小さい方の鳥)によって暖められていた。初めの頃、巣にはまるで気付かなかったが、それは、上から観察した場合、卵を抱いているオスの体とその影が巣の周辺を实にうまくボカしていたからである。このことは巣箱の中を覗くための観察窓はキーウィを横から見ることのできる位置に設けるべきであることを示唆している。メスも同じ部屋の中でしゃがんでいた。飼育担当者のデイヴィスが松葉を巣箱の入り口に置いてやったところ、翌朝、それを箱の中へ取り込んでいた。この日から、毎日、懐中電灯でキーウィを観察することにした。

その日から2週間の間、抱卵はオスのみが行うということが判った。メスは常に巣のない右側の部屋の中に居た。オスは寝る時はいつも、卵を抱いて

ボールのように丸くなり、巣箱の後ろ側を向いて寝ていた。“ニュージーランドの鳥”を書いたゴードン・ウィリアムズ博士はミナミキーウィ *South Island Brown Kiwi Apteryx australis australis* の場合、少なくとも抱卵初期にはオスメス交代で抱卵すると報告している。しかし、当園のキタキーウィの場合、メスは抱卵後期にも卵に対し、何の興味も示さなかった。

### ヒナ誕生!!

1月20日、オスは卵を抱いていたが、いつもと違い、巣箱の入り口の方を向いていた。巣の左側に丸くわん曲した白い破片があったが、デイヴィスはプラスチックか何かだと思っていた。翌日になって、その白い破片は卵の内側にある膜であることが判った。

1月22日、巣の中でオスと共にしゃがみ込んでいたヒナを発見した。ヒナはアブオカード（熱帯アメリカ産クスノキ科の果樹—訳者注）の実位の大きさで、色は濃い黄褐色、姿は成鳥をそのまま小さくしたような感じであった。しかし、クチバシが成鳥より短かく、曲ってわず真直であった。ヒナは乾いて、卵のカラのかげらは全然見あたらなかった。そこで我々は報じられるようにオスがカラを全部食べてしまったものと推測した。

筆者らは夕方の観察を始めた。1月25日、午後5時30分、初めてヒナが巣の外で観察された。ヒナは足早やにチョコチョコと歩き、地面を探索していた。それからの3日間、ヒナをたびたび観察した。ヒナは観客や雑音を気にしない様子であった。28日、初めて水を飲むのを観察し、30日には初めて餌を食べ

ているのが観察された。

筆者らは大体どの位の量の餌を食べるのかを知るため、皿の中に残った餌とこぼれた餌の重さを量ることにした。2月1日、デイヴィスが初めて、ヒナの体に触れることができた。彼女が水を換えるため、キーウィ舎のドアを開けたところ、ヒナは彼女のところに寄ってきて、かすかに鼻をクンクンと鳴らし、手のおいを嗅ぎ、そして数回手に触れた。また、この日、ヒナが舎内の後と横の壁沿いをしきりに歩いているのが観察された。そこで、ヒナが歩いていた辺りに、ミールウォームとミミズを入れた皿を置いておいた。デイヴィスは青い白熱電球が消えている時の方がヒナはより活発に動くということに気付いた。つまり、キーウィは青い白熱電球の下でも活動すると思われていたが、実際は、人工造花の下などこの白熱電球の影を求めて活動していたということなのである。そこで観覧通路を閉める夕方から午前9時まで照明を消してやったことで、キーウィ達はより自由になれたようである。

それからの数週間、ヒナは段々と親のように内気で隠れるようになり、穴の外ではあまり観察できないようになった。懐中電灯をつけて観察してみると親仔3羽は右側の部屋で熟睡していた。定期的にヒナを観察したり測定することがストレスとなって、親をイライラさせ、その結果、ヒナを攻撃し、傷つけるようなので、体重の測定は月に一度と決めた。2月22日は体重352g。3月17日には444gとなり、ますます元気に、丈夫になっていった。4月6日（生後75日）、懐中電灯を点けて見ると、穴の中でヒナはオスに抱かれ、とても元気そうであった。

（訳—長瀬 健二郎：飼育課、獣医師）

## キーウィ 雑感

昭和45年7月2日、万博記念にニュージーランド政府より贈られた、キーウィのニュージー君——特集にあたって、何か一言と云う事であったが、此の7年間、ほんとによくガンバってくれたと、先づ第一番に、ニュージー君にお礼を云いたい思いで一杯である。そして、僅か3月で逝ったランドちゃんの冥福を祈りたい。又、好物のミミズについて、御好意をいただいた一般の方々に、改めて厚くお礼申上げたい。おかげでミミズは購入可能になり、食料面では一段落と云う処である。

キーウィには、他の鳥とは非常に異った種々の面白い点がある。しかし、世界でも飼育例が少なく、しかも夜行性の為、観察者も少い。その点、今回のワシントンやオトロハンガの飼育例は極めて興味深い。キーウィの内気さ、馴れにくい事、体重測定の困難さ、懐中電灯での見分け難さ、いづこも同じといちいちうなづかれる。キーウィのペアの組み難さも、オークランド動物園（ニュージーランド）のキーウィ担当者レバー氏の示唆と符合する。巣材の事も、ニュージー君は干草にしているが、別荘の岩穴から本邸の木穴へ自分で上手に運び入れる。あの曲った嘴の裏側へひっかけるようにして、後向きに。そして、自分が穴へ入ってから嘴で周囲の干草をかき寄せ入口をふさいだりする。時には巣を出る際に、ちょいちょいと干草を寄せて入口が見えにくいようにする。バランの葉を細くさいて使う事もある。此の巣は非常に大切にしている、さわろうとすると、と

んで来て怒る。嘴をパチパチさせ、足をふみならし、うなる。堂々たる抗議である。最初の頃のおどおど、びくびく、まるで硬直したように動かなかった態度とは大違いだ。

御機嫌さえそわなければ、巣から嘴だけ出して、持って来たパンを食べてくれる。まだ出歩くには早い時間で、一種のあいさつみたいなものだ。ニュージー君にすれば、最大の信頼を示しているつもりかも知れない。もっと夜の時間があれば、まだまだ見落している魅力はつきないのではないかと、いつも心残りに思われる。35℃、転卵しないと云う、一寸考えられないような、キーウィの人工ふ化のあり方を見ても、此の鳥にはもっともっと隠されたいろいろな事がありそうだ。

あの見事な地下室の工事、あの独特のなき声、そして、まるで診察でもするような、あの嘴でのチェックを、一度でも受けた人ならば、恐らく一生忘れられない事だろう。

ワシントンとオトロハンガの繁殖に、心からお喜びと敬意を表すると共に、わがニュージー君にもいつか喜びの日がありますようにと、ひそかに祈る次第である。

（飼育課：磯田 啓子）



ボールの、  
 っていた。  
 ン・ウィ  
 Island  
 australi  
 メス交代  
 のキタキ  
 し、何の  
 1月20  
 い、菓箱  
 くわん世  
 ラステイ  
 その白い  
 た。  
 1月2  
 るヒナを  
 リカ産  
 で、色は  
 たような  
 り短か  
 いて、身  
 そこで  
 べてし  
 筆者  
 時30分、  
 足早や  
 それか  
 は観客  
 めて水

## オトロハンガにおけるキーウィの人工ふ化について

昨年3月、当園のキーウィ担当の磯田啓子係員がニュージーランドを訪れ、キーウィについてのいろいろな資料、情報入手されたが、その際、現地知り合いになられた日本人の方から2度にわたって、キーウィに関する新聞記事を送って頂いた。この記事の内容はキーウィの人工繁殖に成功したことに關するもので、非常に興味深いものであった。その記事を要約して御紹介したい。

[ニュージーランドヘラルド新聞、1977年1月12日付]

オトロハンガのキーウィのふ化の成功は、キーウィの繁殖の増加と種の滅亡の危機を救うものである。



71日のふ化日数を経てそのヒナはふ化した。卵はふ卵器の中で常に35℃に保たれていた。このふ化において得られた知識は、ふ化温度と家禽のように転卵すべきでないということである。

キーウィは1年間に2、3ケの卵を産む。しかし、もし卵を取り去るなら、もっと卵を産むだろう。

ふ化したばかりのヒナは、ちぢれた羽毛でおおわれており、2、3日で起立し、7~10日以内に他のキーウィの幼鳥と共に餌のミミズを食べようになる。ヒナの性別は少なくとも1年間は判らない。メスは口バシがもっと長く、オスよりも体が大きい。ヒナがオスカメスカ判らないけれども、そのヒナは米国の科学者 William A. Calder 教授の名前にちなみ、William Calder 五世と名付けられた。このふ化の成功はオトロハンガ動物協会のメンバーによる4年間の努力の結果である。この協会は内務省の野生生物局の許可のもとでキーウィを展示している。

[ニュージーランドヘラルド新聞、1977年6月8日付]

今年1月に人工ふ化でふ化した William Calder 五世はオトロハンガのキーウィハウスで、他の若い

ヒナと一緒に成育している。牛の心臓、大豆油、ビタミン添加物、オートミールの食物のおかげでウィリアム君は今、体重2ポンド2オンス(964.7g)ある。最初の2ヶ月ほどは副会長の Rowe 氏のもとで放飼場内で過ごしたが、

夜行性キーウィ舎に段々と適応してきた。今年は協会の夜行性展示館の中でもっと多くのヒナの誕生が期待されている。現在2番いのキーウィが巣穴を準備中である。ヒナの繁殖が非常によいので、協会は Wanganui 地区に1番いのキーウィを放した。キーウィはもし卵を取り去れば1年に2ケ以上の卵を産むので、人工ふ化の技術の修得はキーウィのヒナの繁殖を増加させることができる。そしてキーウィは抱卵という長い仕事(約70日)から解放される。この長期間の人工ふ化の詳細は国際動物園年報にのせる予定である。

以上が新聞記事の内容であるが、キーウィの人工ふ化の成功は始めてと思われ、しかも70数日の長いふ化期間を通して転卵の必要性がなく、温度も35℃に維持するなど非常に目新しいことばかりである。

参考までに世界の動物園で飼育中のキーウィは下記の通りである。(国際動物園年報1976年版より)

国名	園名	オス	メス	不明
米 国	シカゴ	1	0	
〃	ワシントン	1	1	
〃	サンディエゴ	1	1	
オーストラリア	シドニー	1	1	
日 本	大阪	1	0	
ニュージーランド	オークランド	4	8	4
〃	ウェリントン	1	3	

この内、繁殖に成功した園はオークランド、ワシントン、シドニー、ロンドン (訳一宮下 実:飼育課、獣医師)



## 動物園ニュース

### ☆メンヨウの毛刈り

6月1日は衣がえの日ですが、動物園のメンヨウもこれにちなん



### ☆ハ虫舎ガラス入替工事

ハ虫舎のガラスは保温の必要のために2枚のあわせガラスになっていますが、そのための



# 夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



## 近鉄百貨店

ヒナは300gで、孵化時のヒナの体重は450gでした。2日目から餌付けを始め20日目まで体重が倍増し、すごい成育ぶりです。



### ☆スプリングボック出産

6月21日、スプリングボックが1頭(オス)生まれました。母親はこれが4度目の出産で、じょうずに仔を育てています。昭和49年2頭、50年2頭、51年1頭とここ毎年繁殖しており、今年は6月末にもう1頭誕生予定です。

### ☆タンチョウのふ化

5月27日、30日に各1ケ産卵し抱卵を続けていたタンチョウの卵が6月28日、30日にそれぞれふ化し2羽のヒナは両親のもとで順調に成育しています。

毎月第3月曜日は休園日です。9月までの休園日は下記の通りです。  
 7月18日、8月15日、9月19日  
 開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。



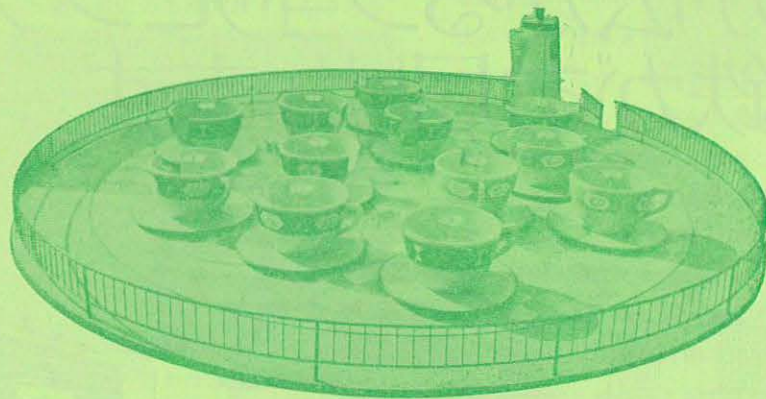
## オトロハンガにおけるキーウィの人工ふ化について

昨年3月、当園のキーウィ担当の磯田啓子係員がニュージーランドを訪れ、キーウィについてのいろいろな資料、情報入手されたが、その際、現地で知り合いになられた日本人の方から2度にわたって

ヒナと一緒に成育している。牛の心臓、大豆油、ビタミン添加物、オー



## 遊園施設委託経営・製作・販売



## 久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

は口バシがもっと長く、オスよりも体が大きい。ヒナがオスカメスカ判らないけれども、そのヒナは米国の科学者 William A. Calder 教授の名前にちなみ、William Calder 五世と名付けられた。このふ化の成功はオトロハンガ動物協会のメンバーによる4年間の努力の結果である。この協会は内務省の野生生物局の許可のもとでキーウィを展示している。[ニュージーランド Herald 新聞、1977年6月8日付]

今年1月に人工ふ化でふ化した William Calder 五世はオトロハンガのキーウィハウスで、他の若い

記の通りである。(国際動物園年報1976年版より)

国名	園名	オス	メス	不明
米 国	シカゴ	1	0	
〃	ワシントン	1	1	
〃	サンディエゴ	1	1	
オーストラリア	シドニー	1	1	
日 本	大 阪	1	0	
ニュージーランド	オークランド	4	8	4
〃	ウェリントン	1	3	

この内、繁殖に成功した園はオークランド、ワシントン、シドニー、ロンドン (訳—宮下 実:飼育課、獣医師)

## 動物園ニュース

### ☆メンヨウの毛刈り

6月1日は衣がえの日ですが、動物園のメンヨウもこれにちなんで暑くなるしい羊毛を刈り取ってやりました。毎年6月1日にこの毛刈りを実施していますが、今年は7頭の毛刈りを行い、28kgの羊毛が取れました。



### ☆クロヒョウの人工哺育

6月13日、クロヒョウの赤ちゃんが2頭生まれました。最初の5日間は母親もうまく世話をしていたのですが、6日目に赤ちゃんがどうも衰弱気味のため、思いきって人工哺育することにして母親から引取りました。1頭はすでに死亡していましたが、残る1頭(オス)は



保育器に収容して育てています。最初はミルクの吸う力も弱かったのですが、日ごとに吸う力も強く、飲むミルクの量も増えてきており、発育も順調です。

### ☆エミュウの誕生

京都市動物園から4個、みさき自然動物園から3個、エミュウの卵を頂き、ふ卵器に入れてあたためていましたが、その内の1個が6月7日ふ化しました。ふ化日数は55日で、ふ化時のヒナの体重は450gでした。2日目から餌付けを始め20日目で体重が倍増し、すごい成育ぶりです。



### ☆スプリングボック出産

6月21日、スプリングボックが1頭(オス)生まれました。母親はこれが4度目の出産で、じょうずに仔を育てています。昭和49年2頭、50年2頭、51年1頭とここ毎年繁殖しており、今年は6月末にもう1頭誕生予定です。

### ☆ハ虫舎ガラス入替工事

ハ虫舎のガラスは保温の必要のために2枚のあわせガラスになっていますが、そのためその間にくもりが生じ大変見にくくなってきましたので、一部のガラスを入替えしました。ヘビやワニの入っている部屋のガラスだけに、ガラス屋さんも恐々でした。



### ☆キーウィ入園7周年

1970年の万国博覧会を記念して、ニュージーランド政府から贈られたキーウィ(オス)が7月2日で丁度満7年になりました。夜行性の鳥だけにその姿を見た方も非常に少いため、7周年を記念して7月1日~7月10日の間、キーウィの鳴声を録音テープで放送し、その鳴声を聴いてもらいました。又、期間中、ニュージーランド大使館提供のキーウィのパッチを配布しました。

### ☆「とりどりの卵」展 開催中

北園展示館で現在、「とりどりの卵」展が開催されています。各地の動物園の協力により、世界一大きいダチョウの卵から最小のハチドリ卵まで、124種347点のさまざまな卵が集められています。



(期間: 6月10日~9月10日)

### ☆タンチョウのふ化

5月27日、30日に各1ヶ産卵し抱卵を続けていたタンチョウの卵が6月28日、30日にそれぞれふ化し2羽のヒナは両親のもとで順調に成育しています。

毎月第3月曜日は休園日です。9月までの休園日は下記の通りです。

7月18日、8月15日、9月19日  
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

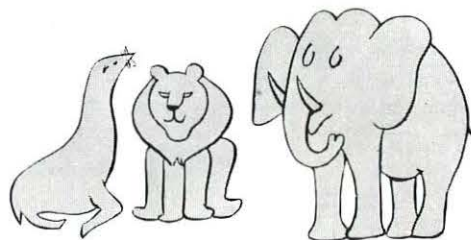


なきごえ 昭和52年7月15日発行(毎月1回15日発行) 第13巻第7号(通巻143号)  
 〒543 大阪市天王寺区玉水町2  
 編集/大阪市天王寺動物園 電話 大阪 (06)771-0201  
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 振替口座 大阪 37823  
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種 | 枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三  
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明